

# 第4回 大淀川水系 水防災意識社会再構築協議会 開催

大淀川流域等の関係機関が連携・協力し、社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」を再構築することを目的として協議会を設立し、ハード・ソフト対策を一体的、計画的に推進しています。

第4回となる今回の協議会では、H30年度に宮崎市内で発生した内水氾濫を受け、新たに内水対策を取組方針に追加することとしました。また減災に係わる取組方針の実施状況をフォローアップし、関係機関で進められている主な取組内容について、共有を図りました。

## 開催概要

- 日時：令和元年5月31日（金）
- 会場：宮崎河川国道事務所 1階会議室

## 協議会 委員名簿

- 規約別表のとおり。

## 議事内容

- 規約改正
- 「減災に係る取組方針」の一部改定
- 「減災に係る取組方針」フォローアップ

## 委員の方の主な発言

- 【宮崎河川国道事務所長】本会議はH27年鬼怒川決壊を契機とした会議であり、住民意識を改善しなければならない。ホットラインについては、洪水時に避難勧告等を発令する市町村に河川の状況を把握いただくため実施している。各自治体の危機管理において是非活用してもらいたい。
- 【宮崎地方気象台長】自治体の防災担当者向けのワークショップについて、防災気象情報の適切な理解を目的として、県の河川課、砂防課、危機管理課と連携し、最低でも年1回の開催を予定。各自治体の協力をお願いしたい。
- 【宮崎県河川課長】L2浸水想定区域図の作成、公表にあたり、関係する各市町村はこれに基づきハザードマップの作成をお願いしたい。また、要配慮者利用施設の避難確保計画の作成において、R3年度までに100%の策定を目標にしている。各市町村は対応をお願いしたい。
- 【宮崎県砂防課長】マイハザードマップについては、福岡県で迅速な避難行動に役立った事例もあり、昨年、門川町において、作成の支援を行ったところである。今後、他の市町村についても作成の支援を行っていくこととしている。
- 【高原町長】H5年の豪雨以降水害が発生しておらず危機意識を持つべきと考える。なおH23年新燃岳噴火し住民の自然災害に対する意識は高いと考えており、昨年は地域で自助共助の意識醸成を目指した自主防災組織化へ向けた出前講座や避難訓練等を実施している。
- 【鹿児島県大隅振興局建設部長】大淀川水系では4か所に危機管理型水位計を設置しており、今年度より河川砂防情報システムから水位等の情報が閲覧可能になった。
- 【曾於市長】近年では、降雨がそのまま河道に流れており、農作物への被害、また下流部への被害懸念のため提案した。貯水池、バイパス等の計画、対応をお願いしたい。
- 【杉尾アドバイザー】迅速な避難のためには、住民に危機的状況が迫ってきているということを認識させることが重要。警戒レベル等の情報をわかりやすく、日ごろの防災活動の中で伝えていくべきである。また、そのような場を設けるにあたり、小丸川水系の木城町が小学校の参観日に防災学習を開催した事例は大変参考になるものであると思う。

